

# 秋田県埋蔵文化財センター一年報

8

平成元年度

1990.3

秋田県埋蔵文化財センター



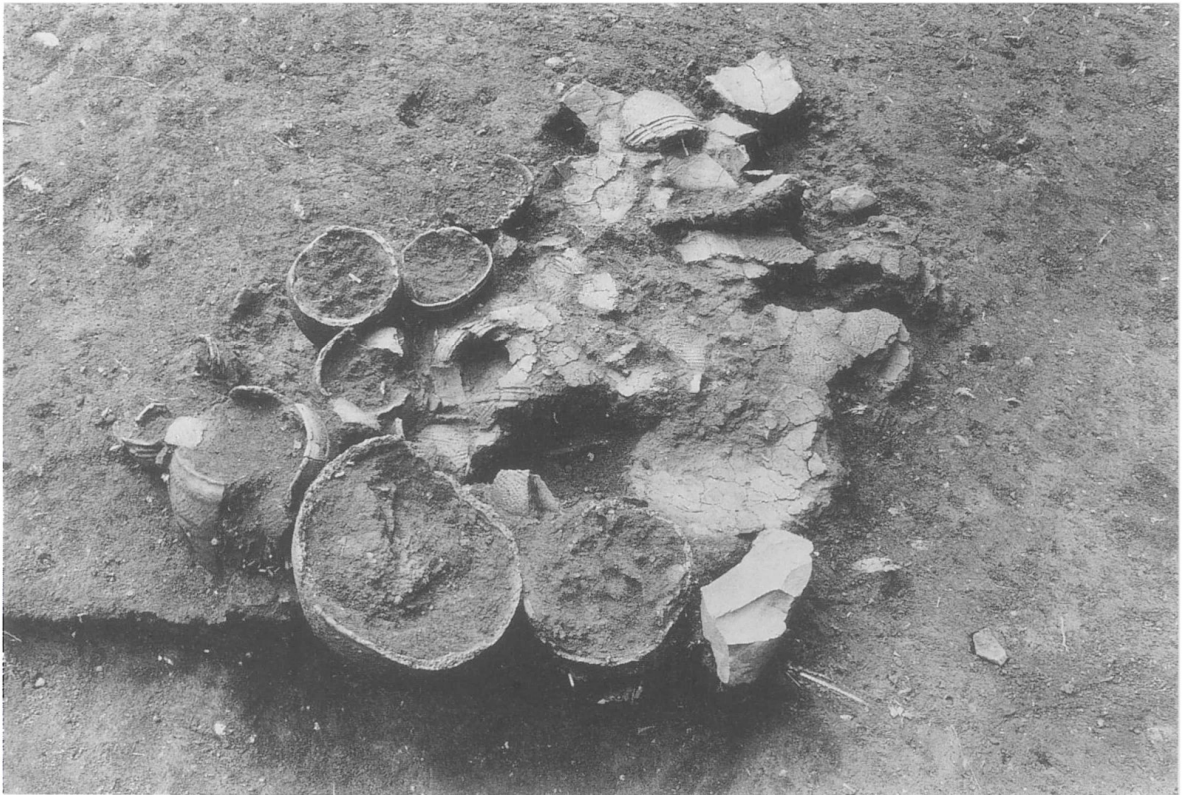
高屋館跡 調査区全景(南から)



高屋館跡 環状に連なる配石遺構(北西から)



諏訪台C遺跡 S I 61弥生時代の竪穴住居跡



同上 S I 61内 土器集中出土状況

## 序

先人が私達に遺した文化遺産を護り後世に伝えて行くことは、現在の我々に課せられた大きな責務と使命であります。

しかし、生活をより豊かにしようとする行為によって、土中に埋もれている文化遺産が、消滅の危機に直面することも少なくありません。当埋蔵文化財センターでは、このように止むなく消えて行く遺跡を記録で保存することを目的に、平成元年度も15遺跡の緊急発掘調査を実施致しました。

調査の結果、鹿角市高屋館跡からは、配石遺構と土壌が環状に配され、その外側を掘立柱建物跡が環状に巡る縄文時代後期前葉の大規模な墓域が検出されました。これは、国指定特別史跡の大湯環状列石の在り方に酷似しているものであります。また、由利郡象潟町上熊ノ沢遺跡からは縄文時代中期後葉の、大館市諏訪台C遺跡からは弥生時代前期の集落跡がそれぞれ発見されるなど、今年度も注目すべき成果が数多く得られております。

本年報は、これらの調査の概要と、当センターの今年度の活動の一部を掲載したものであります。調査によって得られた貴重な資料を広く活用して載くと共に、今後とも、埋蔵文化財とその保護に対する後理解と、当センターへの御協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

平成2年3月20日

秋田県埋蔵文化財センター  
所長 富樫 公一郎

## 例 言

1. 本書は平成元年度における秋田県埋蔵文化財センターの活動内容をまとめたものである。
2. 発掘調査の各遺跡の概要は、調査担当者が執筆した。
3. 本書の編集は、出版・担当が行った。

## 目 次

巻頭図版

例言、目次

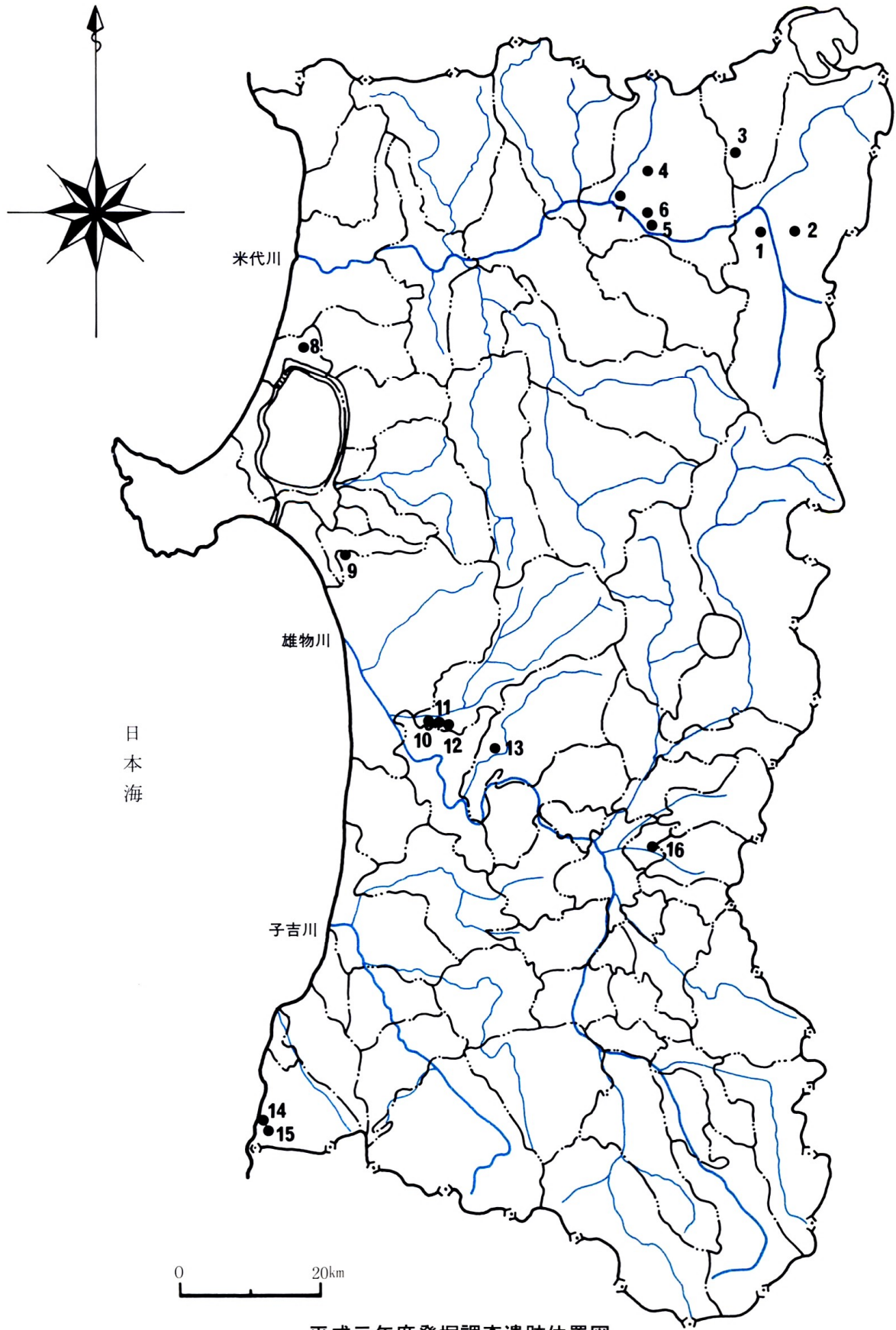
1. 平成元年度埋蔵文化財発掘調査 .....	1
(1) 発掘調査遺跡一覧 .....	1
(2) 各遺跡の発掘調査の概要 .....	3
(3) 現地説明会 .....	10
2. 平成元年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会 .....	11
秋田県埋蔵文化財センター職員録 .....	14

# 1. 平成元年度埋蔵文化財発掘調査

## (1) 発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	時代	原因事業名
1	高屋館跡	鹿角市	4月17日～9月2日	2,680㎡	縄・平	西山地区農免農道整備事業
2	一ッ森館跡	鹿角市	4月17日～6月9日	800㎡	縄・中	鹿角市小枝指地区県営一般農道整備事業
3	はりま館遺跡	小坂町	4月2日～4月28日	2,860㎡	縄	高速交通関連道路整備事業
4	諏訪台C遺跡	大館市	5月8日～6月30日	1,300㎡	縄・弥・平	釈迦内地区農免農道整備事業
5	上ノ山II遺跡	大館市	5月29日～7月15日	3,320㎡	縄	国道103号道路改良事業
6	山王岱遺跡	大館市	7月17日～8月31日	2,300㎡	縄・平・中	国道103号道路改良事業
7	片山館コ遺跡	大館市	6月12日～8月26日	3,850㎡	続縄・中	一般国道7号大館西バイパス建設事業
8	萱刈沢II遺跡	八竜町	10月2日～11月30日	2,000㎡	縄・平	琴丘能代道路建設事業
9	大沢遺跡	秋田市	10月4日～11月10日	600㎡	縄・平	秋田外環状道路建設事業
10	上祭沢遺跡	河辺町	5月8日～7月14日	690㎡	縄・弥・中	高速交通関連道路整備事業
11	駒坂台II遺跡	河辺町	5月8日～7月14日	1,590㎡	縄	高速交通関連道路整備事業
12	駒坂台I遺跡	河辺町	5月8日～7月14日	880㎡	縄	高速交通関連道路整備事業
13	五百刈田遺跡	協和町	6月12日～6月30日	320㎡	縄・弥	県道協和・松ヶ崎線緊急地方道路整備事業
14	ヲフキ遺跡	象潟町	5月8日～6月30日	900㎡	縄・平	大砂川地区農免農道整備事業
15	上熊ノ沢遺跡	象潟町	7月3日～10月3日	1,800㎡	縄・弥	大砂川地区農免農道整備事業
16	払田柵跡	仙北町 千畑町	4月4日～11月7日	1,027㎡	平	学術調査

1～16の調査主体は全て秋田県教育委員会である。 ※縄＝縄文時代 弥＝弥生時代 続縄＝続縄文時代  
平＝平安時代 中＝中世



平成元年度発掘調査遺跡位置図

## (2) 各遺跡の発掘調査の概要

### たか や だて 高屋館跡

所在地	鹿角市花輪字館ヶ沢45	事業名	西山地区農免農道整備事業
調査期間	平成元年4月17日～9月2日	事業関係機関	秋田県農政部鹿角農林事務所
調査面積	2,680㎡	調査担当者	小畑 巖・小林 克・小山内透・三浦光男

遺跡は、米代川の右岸、米代川と花軒田川によって形成された台地上に立地する。台地の標高は150～160mで、沖積地との比高差は40～45mである。遺跡の北東約6kmに大湯環状列石が位置する。

調査の結果、中世の遺構・遺物は検出されず、主に縄文時代後期前葉の遺構・遺物が検出された。検出遺構は、配石遺構9基、掘立柱建物跡26棟、土坑126基、立石6基、柱穴様ピット135基、土器埋設遺構3基、フラスコ状土坑5基、竪穴遺構3基等で、これらの遺構は環状に配置されている。つまり、配石遺構及び土坑が半径約16mの環状に連なり、その外側に掘立柱建物跡がこれを取り囲むように環を描いている。環の中心には配石と土坑が存在するが、その配置のあり方は判然としない。掘立柱建物跡は六角形を呈する6本柱を主体にし、4本柱のものもある。このような環状配置の遺構群の外側には遺物の捨て場が2箇所が存在し、竪穴住居跡は検出されていない。

### ひと つ もり だて 一ツ森館跡

所在地	鹿角市花輪字一ツ森26番地	事業名	鹿角市小枝指地区県営一般農道整備事業
調査期間	平成元年4月17日～6月9日	事業関係機関	秋田県農政部鹿角農林事務所
調査面積	800㎡	調査担当者	桜田 隆・藤原 司

遺跡は、東京大学東洋文化研究所が昭和30年に日本集落址研究に、実証的な1つの基礎を与えようとする意図で発掘調査した小枝指館の北東に隣接し、根市川と寺針川により開析されてきた舌状台地様の地形を、11の郭に区画して構築された一ツ森館跡の第1郭の北西側郭上面縁辺とその下方の帯郭状平坦面である。

調査の結果、帯郭状平坦面から中世の空堀状遺構1条、溝状遺構3条、縄文時代のTピット1基、郭上面から中世の柱穴様ピット群と縄文時代の土坑1基が検出された。

遺物は、大窯3～4期(16世紀後半)の美濃灰釉陶器菊皿片1点の他3点の近世陶磁器片、縄文前期中葉の土器、石器が出土した。

は り ま 館 <sup>だて</sup> 遺 跡

所 在 地	鹿角郡小坂町小坂字下モ上山17-1,外	事 業 名	高速交通関連道路整備事業(小坂インター)
調査期間	平成元年 4 月 2 日～ 4 月 28 日	事業関係機関	秋田県土木部鹿角土木事務所
調査面積	2,860㎡	調査担当者	大野憲司・高橋忠彦・榮一郎 高橋 学・鎌田 茂・三浦光男

はりま館遺跡は、小坂川の右岸台地上に立地している。昭和63年度にA・B・C・D・EI・EII・EVI区が発掘調査されており、平成元年度には、残りのEIII区の調査を行った。EIII区は、周囲との比高差約10mの小山とその斜面が、調査対象地である。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡10軒（前期中葉6軒、同中期後葉～後期前葉4軒）、Tピット2基、フラスコ状ピット4基、土坑11基、焼土遺構2基、土器埋設遺構1基が検出された。土器埋設遺構（晩期）を除くTピット以下の遺構は、前期～後期中葉に属するものである。遺物は、縄文時代前期中葉と中期後葉～後期中葉のものが各々半ばし、この他には後北C式土器が少量出土している。縄文時代前期中葉の円筒下層a式期の竪穴住居跡は、県内で初めて確認されたものである。隅丸長方形を呈し、中軸線上に配された2本主柱のものを主にするが、4本柱のものもあり、床面中央に地床炉がある。

す わ だい  
諏 訪 台 C 遺 跡

所 在 地	大館市大茂内字諏訪台33外	事 業 名	釈迦内地区農免農道整備事業
調査期間	平成元年 5 月 8 日～ 6 月 30 日	事業関係機関	秋田県農政部北秋田農林事務所
調査面積	1,300㎡	調査担当者	利部 修・和泉昭一

諏訪台C遺跡は大館盆地の東端、標高105m前後の低い台地上に位置し、南側と西側には沖積地が広がっている。遺跡からは、縄文時代前期・後期・晩期・弥生時代初頭、平安時代など79の遺構を検出した。縄文時代では竪穴住居跡2軒、建物跡1棟、炉跡9基、土器埋設遺構1基、焼土遺構7基、土坑40基、フラスコ状土坑3基、弥生時代では竪穴住居跡5軒、焼土遺構5基、集石3基、平安時代以降では竪穴住居跡2軒と不明遺構1基をそれぞれ検出した。この中で弥生時代の焼土遺構は同一地点に集中し、そこが住居跡であることが後で判った。これらの中で特筆されるのは、径約8mの建て替えのあった弥生時代の住居跡S I 61の存在である。ここからは2基の炉が検出され、北西壁際では拳大のベンガラが見ついている。また、住居内からは、東壁際に集中する11個体を含む約30個体の土器が出土した。これら弥生時代の土器には、深鉢、台付鉢、甕、浅鉢、高坏、壺などの器種がある。

かみのやま  
上ノ山Ⅱ遺跡(第2次調査)

所在地	大館市山館字上ノ山17-1外	事業名	国道103号道路改良事業
調査期間	平成元年5月29日～7月15日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	3,320㎡	調査担当者	高橋 学・藤原 司

遺跡は、JR大館駅の南南東約6.5km、奥羽山脈から大館市南東部に派生する標高72～77m程の台地端部に位置している。

調査の結果、竪穴住居跡7軒、土坑30基、土器埋設遺構1基、石囲炉1基(以上縄文時代)、竪穴状遺構5基、溝状遺構3条、畑畝跡1箇所(以上時期不明=近現代か)を確認した。縄文時代では、遺構内出土遺物からみて、後期前葉の土器埋設遺構、晩期後葉の土坑1基、それ以外の大部分の遺構は、出土遺物の認められないものを含めて晩期前葉～中葉頃と考えられる。竪穴住居跡のうちの2軒は、一巡する壁溝の一部が途切れ、その間に楕円形の柱穴が2本配されており、出入口を伴う住居と想定している。遺構外出土遺物は、縄文時代早期の貝殻文土器、前期～晩期の土器、石器では、トランシェ様石器、後期の「中高石皿」と呼ばれる特異な形態を示す石皿などを確認している。

さんのうたい  
山王岱遺跡(第2次調査)

所在地	大館市餌釣字山王岱30-1外	事業名	国道103号道路改良事業
調査期間	平成元年7月17日～8月31日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	2,300㎡	調査担当者	高橋 学・藤原 司

遺跡は、奥羽山脈から大館市南東部に派生する標高75m前後の平坦な台地上に位置している。この台地は、周知の遺跡である中世城館「餌釣館」の占地している区域であり、昭和62年の第1次調査において同館に伴うと見られる空堀などを検出している。

平成元年度の調査の結果、第1次調査で確認している空堀の延長部分、竪穴住居跡1軒、土坑、竪穴状遺構、溝状遺構、柱列などの遺構を検出し、縄文土器、土師器、中世・近世陶磁器、鉄・青銅製品などの遺物が出土した。平安時代の竪穴住居跡、館期の空堀以外の遺構には出土遺物がなく、時期を明確にできなかった。空堀(SD01)は、上面幅4～4.5m、下面幅約2.5m、深さ0.7～0.8mで断面逆台形を呈している。堀覆土中位より14～15世紀の瀬戸窯産灰釉平茶碗が、同上位より17世紀後半代の煙管(キセル)が出土しており、出土遺物から見ても堀開削時期を中世に求めることができる。

かた やまたて こ  
片山館コ遺跡

所在地	大館市片山三丁目26-1外	事業名	一般国道7号大館西バイパス建設事業
調査期間	平成元年6月12日～8月26日	事業関係機関	建設省東北地方建設局能代工事事務所
調査面積	3,850m <sup>2</sup>	調査担当者	榮一郎・栗澤光男・進藤良平・吉田 真

遺跡は大館段丘地の北西縁の北向き舌状台地に立地する。昭和46・47年の大館市史編さん委員会による発掘調査によって、舌状台地の中央部を東西に走る1条の空堀と、台地の基部を東西に走る2条の空堀とそれに伴う3条の土塁とによって区画された連郭式の中世城館であることが明らかになったほか、縄文～中世の遺構・遺物も検出されていた。

今回の調査は台地基部を対象とし、空堀2条、溝15条、焼土遺構1基、土坑2基などの遺構と若干の土器・石器などの遺物を検出した。以前に確認されていた空堀に伴う土塁は既に削平されていた。検出遺構のうち空堀以外は近現代のものと考えられる。2条の空堀は3m前後の間隔で平行し、ともに確認面での幅が3m前後、深さ1m前後を測る。両者とも薬研堀であるが、南側の堀の両側には犬走り状の平坦面が形成されている。また、舌状台地基部の中央では空堀が浅く掘り残されており、この部分が郭への出入り口にあたるものと思われる。

かや かり さわ  
萱刈沢Ⅱ遺跡

所在地	山本郡八竜町鶴川字萱刈沢5-1	事業名	琴丘・能代道路建設事業
調査期間	平成元年10月2日～11月30日	事業関係機関	建設省東北地方建設局能代工事事務所
調査面積	2,000m <sup>2</sup>	調査担当者	利部 修・榮一郎・小畑 巖・高橋 学

谷地薫・武藤祐浩・高橋忠彦・小林克・栗澤光男・和泉昭一・鎌田茂・小山内透・藤原司・三浦光男・吉田真

遺跡は、八竜町萱刈沢部落の東側、標高約30mの成合台地と呼ばれる海成段丘上に立地する。本遺跡の南西約200mには県指定史跡萱刈沢貝塚がある。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡3軒、フラスコ状土坑5基、土坑8基、柱穴7基、性格不明遺構1基、平安時代の竪穴住居跡3軒、柱列1列、溝跡2条、土坑1基の合計31遺構を検出した。フラスコ状土坑は埋没状態や脂肪酸分析の結果から、墓墳ではなく貯蔵穴と考えられる。

出土遺物は縄文土器（早期、前期、中期、後期）、石器類（石鏃、石匙、石筥、スクレイパー、磨製石斧、凹石、石錘、石核、剥片）、土師器、陶磁器で、遺物の総量はコンテナで14箱である。土器は円筒下層d式土器の他に、大木5式土器、吹浦式土器、さらに北陸地方の土器も出土した。縄文時代前期の大木式系土器の出土は、県北地域ではきわめて珍しい。

おお さわ  
大 沢 遺 跡

所 在 地	秋田市金足岩瀬字大沢92-58外	事 業 名	秋田外環状道路建設事業
調査期間	平成元年10月4日～11月10日	事業関係機関	建設省東北建設局秋田工事事務所
調査面積	600m <sup>2</sup>	調査担当者	大野憲司・安田忠市

遺跡は、太平山地から北に延びる俎山山地の、西側に張り出した丘陵地西端部の北向きの緩斜面に立地している。この緩斜面は、全体の規模が南北約40m×東西約30mで、平坦面は少ない。

調査の結果、平安時代の竪穴住居跡1軒、時期不明の焼土遺構2基が検出され、縄文時代前期末葉～中期初頭の土器や石器、平安時代の土師器、中世の珠洲系陶器が出土した。平安時代の竪穴住居跡の3/4は畑の耕作等で失われている。縄文時代の遺物は、主に2箇所から出土している。このうち1箇所には、チップやフレイクが集中しており、石器の製作跡か石屑をまとめて捨てた場所であると思われる。

かみ まつり さわ  
上 祭 沢 遺 跡

所 在 地	河辺郡河辺町戸島字上祭沢38番地、上野3番地	事 業 名	高速交通関連整備事業(御所野線)
調査期間	平成元年5月8日～7月14日	事業関係機関	秋田県土木部秋田工事事務所
調査面積	690m <sup>2</sup>	調査担当者	小林 克・吉田真

上祭沢遺跡は岩見川左岸の標高61mの段丘上に立地する。旧秋田県林業センター付属自然観察園内の“馬の背”状台地が調査区で、調査の結果、縄文時代早期から中世までの遺構・遺物が検出された。縄文時代早期の遺物として条痕および微隆起線によって特徴づけられる中～後葉の土器が出土している。従来、この種の土器は本荘・神ノ沢海岸遺跡、および大館・上ノ山II遺跡で確認されていたのみであるが、他資料との対比の結果、東北中南部の槻ノ木I式に近いことが判明している。また、4基の中世の塚が確認され、そのうち2基が調査された。出土した土器は須恵器・瓷器折衷系陶器である可能性が考えられ、平安時代末期から鎌倉時代にかけての年代が推定されている。その他、縄文時代中期後葉の竪穴住居跡および土坑群、弥生時代の土坑なども検出されている。

こま さか だい  
**駒坂台 II 遺跡**

所在地	河辺郡河辺町戸島字北ノ沢80番地	事業名	高速交通関連整備事業(御所野線)
調査期間	平成元年5月8日～7月14日	事業関係機関	秋田県土木部秋田土木事務所
調査面積	880m <sup>2</sup>	調査担当者	小林 克・吉田 真

駒坂台 II 遺跡は駒坂台 I 遺跡の南西側に隣接して位置する。七曲台の南側にある台地は幾つかの沢筋によって開析されているが、駒坂台 I 遺跡とは小さな沢頭によって画されている。標高は39mである。調査の結果、縄文時代後期の石組炉、組石遺構が1基ずつ検出されたほか、同時期の土器片、石器類が出土している。

こま さか だい  
**駒坂台 I 遺跡**

所在地	河辺郡河辺町戸島字北ノ沢83番地	事業名	高速交通関連整備事業(御所野線)
調査期間	平成元年5月8日～7月14日	事業関係機関	秋田県土木部秋田土木事務所
調査面積	1,590m <sup>2</sup>	調査担当者	小林 克・吉田 真

駒坂台 I 遺跡は岩見川左岸の標高37mの台地上に立地する。昭和56年から調査された七曲台地の遺跡群とは白熊沢川を隔てて隣合い、北に向かって延びた台地上に調査地点がある。検出された遺構は伏焼きの炭焼窯と推定される土坑1基である。出土した遺物には縄文時代後期の土器片、石器類がある。

ご ひやく かり だ  
**五百刈田遺跡**

所在地	仙北郡協和町上淀川字五百刈田31-6	事業名	県道協和・松ヶ崎線緊急地方道路整備事業
調査期間	平成元年6月12日～6月30日	事業関係機関	秋田県土木部仙北土木事務所
調査面積	320m <sup>2</sup>	調査担当者	谷地 薫・三浦光男

五百刈田遺跡は、JR 奥羽本線羽後境駅の南西約3kmにある。本遺跡の南側を雄物川の支流淀川が大きく蛇行して西流しており、淀川によって形成された河岸段丘のうち、低位から3段目の段丘面上に立地している。

調査の結果、縄文時代前期(大木2b式期)の竪穴住居跡1軒、土坑2基、弥生時代後期の土坑1基等を検出した。遺物は縄文時代前期大木2b式、中期大木8b式土器が主体を占め、後期、晩期、弥生時代前期、後期の土器も僅かに出土した。石器類の出土総数は287点であるがそのうち2次加工のある剥片、石核、剥片を除いたToolは152点である。

## ヲフキ遺跡

所在地	由利郡象潟町大砂川字ヲフキ27番地、外	事業名	大砂川地区農免農道整備事業
調査期間	平成元年5月8日～6月30日	事業関係機関	秋田県農政部由利農林事務所
調査面積	900m <sup>2</sup>	調査担当者	栗澤光男・鎌田 茂

遺跡は、日本海の汀線から直線で500m程に位置し、日本海を望む鳥海山（標高2,236m）の山腹に水源を發する川袋川の支流、川袋小川右岸の標高32m前後の台地上に立地している。

調査の結果、900m<sup>2</sup>の調査範囲から土坑18基、土器埋設遺構4基の計22遺構が検出され、大木5式土器を主体とした縄文時代前期の土器、石鏃、石槍、石錐、石匙、石筥、スクレイパー、磨製石斧、半円状扁平打製石器、凹石、磨石、異形石器の石器及び石冠、玦状耳飾の石製品と平安時代の土師器、須恵器などが出土した。検出された遺構は、遺構内外の出土遺物から縄文時代前期のものと考えられ、その性格は墓として構築されたものと思われる。

なお、遺跡の範囲は検出遺構と出土遺物の分布状況などから、調査区周辺の水田地帯に広がるものと予測される。

## かみくまのさわ 上熊ノ沢遺跡

所在地	由利郡象潟町大須郷字上熊ノ沢3番地、外	事業名	大砂川地区農免農道整備事業
調査期間	平成元年7月3日～10月3日	事業関係機関	秋田県由利農林事務所
調査面積	1,800m <sup>2</sup>	事業担当者	武藤祐浩・和泉昭一

遺跡は、鳥海山の西麓、日本海の海岸線より1.5kmの所に位置する。鳥海山に源を發する川袋川の右岸で、標高52mの台地上に立地する。

調査の結果、縄文時代中期後半の住居跡19軒、フラスコ状土坑2基、弥生時代前期の住居跡1軒、土器埋設遺構1基など計52遺構を検出した。遺物は縄文時代早期～弥生時代の土器、石器の他、寛永通宝が出土した。

調査区はそのほぼ中央を横切る小川によって南半と北半にわけられるが、検出した遺構のほとんどが南半に集中している。縄文時代中期後半の住居跡は、この時期に特徴的な複式炉の付設されたものである。12基検出した複式炉のうち、最大のものは長軸2.3m、幅1.4mを計る。19軒分検出した住居跡のなかには、住居を縮小したものや、拡張したものが含まれており、この集落全体の変遷が考えられる。

ほつ たの さく あと  
**弘 田 柵 跡**

所 在 地	仙北町弘田・千畑町本堂城回	事 業 名	学術調査
調査期間	平成元年4月4日～11月7日	事業関係機関	秋田県教育庁弘田柵跡調査事務所
調査面積	1,027m <sup>2</sup>	調査担当者	児玉 準

第79～83次にわたる調査を行った。第79次調査は外郭・内郭北部の120,000m<sup>2</sup>を対象に、ハンド・ボーリングによる地山レベルの計測、遺物の表面採集などの記録作成を中心に行い、地山地形の様相を把握し、一部で遺物を採集した。また2地点において花粉分析試料を採集した。第80次調査では、長森丘陵西部の34,000m<sup>2</sup>にわたる微地形測量と測量基準点の埋設を行った。第81次調査はこれまで唯一未発見の内郭西門の検出を目的としたものである。内郭西門の存在を長森丘陵北西端に予想したのであるが、予想位置には存在せず、代わって内郭線角材列から連続し、内郭線西側を区切る長さ32.5mの築地土塀を発見した。それにより、内郭西門を丘陵南西端に検出することができた。第82次調査では真山に営まれた堀田氏の居城に伴う堀の一部を検出し、これまでの調査成果を追認した。第83次調査は仙北町による東側石塁の復原工事に伴う調査で、出土した樹木から樹種鑑定試料を採取した。

### (3) 現地説明会

発掘調査の成果を、現地で広く一般県民に公表し、郷土の歴史と埋蔵文化財に対する理解を深めていただくための説明会を、以下の3遺跡で行った。

#### 高屋館跡

期日 平成元年9月2日(土)

#### 取訪台C遺跡

期日 平成元年6月30日(土)

#### 弘田柵跡

期日 平成元年9月23日(土)

## 2、埋蔵文化財発掘調査報告会

平成元年度に行われた県内の遺跡発掘調査の中から、特に注目される8遺跡について、調査の概要を広く一般県民に報告する会を、以下のとおり行った。なお、今回の報告は、秋田県教育委員会が調査主体であるものに限らず、市町村主体の調査及び、講演に深く関連する遺跡についても併せて行った。

1) 期日 平成2年3月10日(土)・11日(日)

2) 会場 秋田県立博物館講堂

3) 対象 一般県民

4) 次第

3月10日(土)

開会挨拶(富樫公一郎 所長)

平成元年度県内発掘調査の概要(富樫泰時 副所長)

報告

1 秋田城跡(日野 久 秋田市教育委員会社会教育主事)

2 払田柵跡(児玉 準 払田柵跡調査事務所文化財主任)

3 大館野遺跡(板橋範芳 大館市教育委員会主査)

3月11日(日)

報告

4 上熊ノ沢遺跡(武藤祐浩 学芸主事)

5 諏訪台C遺跡(利部 修 学芸主事)

6 高屋館跡(小畑 巖 学芸主事)

7 大湯環状列石周辺遺跡(秋元信夫 鹿角市教育委員会主任)

8 地方遺跡(石郷岡誠一 秋田市教育委員会主査)

講演

「ストーンサークルの謎」

奈良大学教授 水野正好氏

埋蔵文化財発掘調査報告会から



講演する水野教授



講演を聴く参加者



私田柵跡の報告

大館野遺跡の報告



展示会場で



展示品を見て、触れて



秋田県埋蔵文化財センター職員録

(平成2年3月現在)

所 長	富 樫 公一郎
副 所 長	富 樫 泰 時
主 査	佐 田 茂
主 事	高 橋 忠太郎
学芸主事	船 木 義 勝
学芸主事	大 野 憲 司
学芸主事	榮 一 郎
学芸主事	利 部 修
学芸主事	小 畑 巖
学芸主事	高 橋 学
学芸主事	谷 地 薫
学芸主事	武 藤 祐 浩
文化財主査	桜 田 隆
文化財主任	柴 田 陽一郎
文化財主任	児 玉 準
文化財主事	高 橋 忠 彦
文化財主事	小 林 克
文化財主事	栗 澤 光 男
非常勤職員	高 橋 中 二
非常勤職員	小山内 透
非常勤職員	和 泉 昭 一
非常勤職員	鎌 田 茂
非常勤職員	藤 原 司
非常勤職員	三 浦 光 男
非常勤職員	吉 田 真
非常勤職員	進 藤 良 平

秋田県埋蔵文化財センター年報 8

(平成元年度)

発行 平成 2 年 3 月  
秋田県埋蔵文化財センター  
秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地  
電話 0187-69-3331

印刷 有限会社 佐藤印刷